

北社会ニュース106号

2014-11-20

発行者: 鈴木杜夫

皆さんが住む選挙区情勢は如何でしょうか。先週の土曜日(11/15)私に住んで13年越市の産業アスタ会場で野党の女性議員と出合い立寄りに会った。大塚の後輩の9で彼女も臭く。「今、700億円も費やして何で選挙をやらぬあんなの、可笑しい」と。でも、勝たぬはと言つて、11月のおによろくと手を握りあひました。経済政策だけでなく、特定秘密保護法、集団的自衛権の行使容認、原発再稼働等々一人、一人の意見を示す機会が得られた。国民のための政治が透きとがって見える選挙にせぬはと思つておれ。

(1) 11月20日(木)開催 第24回北社会

講師: 天江喜七郎氏(高14回) KPII 監査役・元外務官僚

テーマ: 「東アジア情勢と日韓関係」

天江氏は2006年6月19日・第24回北社会にて「昨今の外交に於いて」と題して講演したとき、今回が通算3回目です。北社会300回記念に青山史朗大先輩が次のおに寄稿されました。平成7年12月7日、当時オムニ総領事だった天江氏が「此れ日本人の誰も出席しなかつた真珠湾慰霊式典」に出席「頼み行動」とマスコミに賞賛されたこと、これに於いても外交官らしい温和な風貌がうかがえ、土が「柔道と空手高技術の肝の玉を持つ北陵健児の如く」と感動したと。私は前回8年前の講演で最も印象に残っている言葉は「ヨーロッパに代表するものは意見が違つても同じ根拠、これに比べ日本は反対意見が少く多」といつか言っていた。最近の日韓関係、世界第二位の経済大国としてアジアの中で第一の出たおの時代は終焉を迎えた日本の現状が今後どうおに影響していくお。本日の講演が華やか。

— 舌文・乱筆 今日もお手紙に下す —